

PHAYAOLレポート 2007-01

“私の夢” (シャンティ寮生文集から)

昨年12月現地訪問の際、子ども達に今時点の夢について語ってもらいました。寮生50名全員に作文してもらった中から9名の“私の夢”を紹介します。



「私の夢」 ワンペン・セータン 中学2年

私には、父がいません。

家は貧乏で、母が畑仕事で生計を立てています。

母は、何とかお金を工面して私を小学校6年まで学校に通わせてくれました。

家には、私を中学に進学させる金銭的な余裕がないので、私も、中学校へは行けないものとあきらめていました。けれど、先輩から、財団の奨学金の話聞いて、応募したところ、寮に入って中学に進学できることになりました。

寮に入って、とても感動したのは、寮の先生や先輩達がとても優しく、スポーツもみんなよくできることです。私が、ずっと抱えている夢は、私がそうしてもらったように、私のような父親や母親のいない子供達や、貧困家庭のこども達を、手助けし私のように教育を受けられるようにすることです。



「私の夢」 ラチャニーコン・セータウ 中学3年

私は、選ばれて、この寮に入ることができ様々なことを学びました。

先生や先輩達は、何が良くて、悪いのかを教えてくれて、私がこの寮に入ることができた一人です。この寮の先生や先輩達といろいろな活動を行うことによって、立派な大人になるように、導いてくれます。そして、私が、とても感動したのは、多くの日本の方がいらして、私達の活動に参加されたことです。一緒に活動している時が、とても楽しくて、私は、こうした機会がもっと増えたらいいと思います。一緒に活動していると、私達は、本当の一つの家族のように感じるができます。私の夢は、服の仕立て屋になることです。腕を磨いて、いつの日か自分のお店を持ちたいです。



「私の夢」 ラッター・トラコーリニラマイ 中学3年

小さいときから、私は、学校の先生になりたいと思っていました。

なぜなら、学校の先生になったら、私の出身の村の子供達に、知識をもたらすことができるし、学校をもっと良くすることもできると思ったからです。

そして私は、その自分の夢に向かって一歩を踏み出すことができました。

私は、この寮に入れて、より一層の希望を持つことができました。

この寮に入って、たくさんの事を学びました。例えば、自律すること、他者を助けることなどです。この寮に、とても愛着があり、ここに入れてとても良かったです。

私の夢も、遠くない将来、叶うことができると感じています。

なぜなら、先生や仲間達が応援してくれ、いろいろな方達が、様々な支援をしてくださっているからです。



「私の夢」 ゲッソニー・ワーキッパニット 高校1年

世界中のすべての人が、自分自身の夢を持つべきです、でも、夢の内容は、一人一人違っているでしょう。そして、私にも夢があります。私は貧しいけれども、貧富の差に関係なく、自分の夢を持てると思っています。

私は、以前は、友達よりも、成績が下でした。時には、成績のことで、引け目を感じることもありました。でも、自分の夢の為に、頑張ろうと決心しました。

そして、ついに、財団の奨学金に応募し、選考されてシャンティ寮に入って、進学することができました。今の私が在るのは、この寮のおかげです。寮に入るとき、寮の先生方がよく言われたのは、「自分自身を律し、一生懸命勉強しなさい。そして、後輩の良きお手本となりなさい。」と、いうことでした。そして、私は、次ぎのように答えていました。「はい。一生懸命勉強します。家族から離れて、たった一人だけけれど、何か問題にぶつかっても、ひるんだりしません。」でも、実際には私は一人ではなく、寮の仲間達や、学校の友達が、いつも励ましてくれています。例え私の人生に、障害があったとしても、私は一歩も退かず進んでいきます。なぜなら、自分の夢を追いかけると決めたからです。

この寮に入ってとても感動したのは、財団が、機会に恵まれないこども達、社会の発展から取り残された子供達の為に、いろいろな支援をしてくれていることです。私の夢は、看護師になることです。

病気やケガで苦しんでいる人を、一人でも助けることができたなら、どんなにうれしいことでしょう。

今は、まだ、単なる夢ですが、この夢に向かって努力し、必ず実現するつもりです。



「私の夢」 ソムサック・セーヤン 高校2年

この寮に応募して、寮生に選ばれたと知ったとき、とてもうれしかったです。初めて寮の敷地に足を踏み入れたとき、良さそうな所だなあと思いました。シャンティ寮で6年過ごして、本当に良いところだと実感しています。僕は、ここで、いろいろな経験をしながら成長してきました。それまで知らなかったたくさんのことを学ぶことができました。財団から援助を受けて5年、両親の経済的負担を軽くすることができ、ここまで学校を続けることができました。僕は、一生懸命勉強して、援助して下さった方々のご恩に報いたいと、強く思っています。そうすることが将来を切り開くことにもつながると思っています。将来は、教師になりたいです。生徒に知識を教え、良い人間になるように導ける教師になりたいです。それが、自分が学んだことを十分に活かすことになると思います。

教師という仕事を通して社会を良くしていきたいです。



「私の夢」 マーリー・セー・フー 高校2年

私は、山岳民モン族の者です。5人兄弟姉妹です。私は3番目のこどもです。

村にいた時、中学を卒業したら、高校に進学することは、できないだろうと思っていました。なぜなら私の家は、貧乏で、高校は家から遠く、お金もたくさんかかるからです。進学するのは、不可能だと思っていました。しかし、中学を卒業するとき、この寮に応募する機会があり、選ばれてこの寮に入れることになりました。こうして私は、進学する機会を得たのです。私は、山岳少数民族のこども達を特別に援助する、

こうした寮があることにとても感動しました。そして、私達のような機会に恵まれないこども達に、温かい支援の手を差し伸べてくださる日本の皆様に心より感謝いたします。

私は、将来は、大学に進学し、言語学学士を修得し、英語か日本語の先生になりたいと思っています。



「私の夢」 アーリー・セーワン 高校2年

私達、人間は、この世に生を受けたときから、自分自身の夢を持つことが認められています。それぞれの希望によって、夢の内容は違ってきます。小さいときからずっと、私の夢は、看護師になることでした。小学校の時から、理科がとても好きでした。

なぜなら、先生が、いろいろな事を教えてくれて、実験を通して、学ぶことができたからです。中学に上がる時に、このシャンティ寮に応募しました。

この寮に入れた上に、奨学金を受け進学することができたことを、とても誇らしく思っています。私は、看護師になりたかったので、理数系を学んで、夢を実現させたいと思いました。

一方、財団の方で、日本への留学事業があり、私も応募したところ、選ばれて日本に留学し、勉強をつづけることになりました。選ばれて、とてもうれしいです。そこで、私の夢は、以前の看護師になりたいというものから、財団の職員か、通訳になることになりました。なぜなら、日本語がとても好きになったからです。自分の夢をしっかりと定めて、その夢を叶えるように努力するつもりです。

自分自身を駆り立て、努力をしないと、夢は、遠く、単なる高望みとなってしまおうでしょう。



「私の夢」 ナーリー・セー・トー 高校3年

私は、山岳民モン族の者です。

私の出身の村は、私の記憶にある限りずっと、繁栄・開発から取り残されてきました。

私は、緑に覆われた山のジャングルで大きくなりました。

中学に上がるときに、貧困者の為の奨学金を得て、中・高等学校に入りました。

私は、この寮に入って中学1年から高校3年まで、ずっと奨学金を得て、勉強を続けることができることを、とても誇りに思います。

私の心の中にずっとある夢は、知識のある教師になることです。

教育を受ける機会に恵まれなかった人達、あるいは、教育を受ける機会を待っている人達に、知識を伝えたいと思います。これが、私が強く実現したいと思っている夢であり、そのために一所懸命頑張りたいと思います。実際のところは、私は、外国語にとっても関心があるので、いくつもの外国語を話せるようになりたいと思います。そして、将来的には、外国語を生かした仕事をしたいと思います。なぜなら、外国語を話すことによって、他国の人からいろいろな知識を得ることができるからです。

でも、教師の職に就くこともまた、私の変わらぬ夢です。



「私の夢」 ピチャンティット・セーソン 高校3年

私は、貧しい家庭に生まれました。

貧しさは、私にいろいろなこと教えてくれたと同時に、私から、人生における様々なチャンスを奪うこともありました。

そこで、私は考えて、できるだけ、他の人と同じようになるよう、自分に欠けているものを補おうと、努力しました。私は、いつも、勉強して、高学歴を得て、仕事を持ち、収入を得、家族を助けたいと思ってきました。父や母の面倒を見て、妹や弟達に、同じように高い教育を受けさせてやりたいのです。このことを実現させることが、わたしの最終的な夢です。夢を持つことが、私を勉強に向かわせました。そして、この寮に入るというチャンスを掴むことができたのです。この寮に入れて、とても幸せだし、おかげさまで将来への希望ももてるようになりました。

私は、生まれてきて良かったと思えるし、この寮に入れたことをとても誇りに思います。

この寮に入って、自分を助けてくれている多くの人々の温かい思いやりを知りました。

私が仕事をもって自立し、家族を経済的に支えるという私の夢が叶ったときには、私に援助の手を差し伸べて下さった方々のように、今度は自分が社会に恩返しをしたいと思います。

現状を考えたとき、今、この子達の、これらの夢を実現させるのは容易なことではありません。日本で暮らしている私たちには、当たり前のことと思いがちですが、この子達を取り巻く環境は、日本では想像もできない状況です。

学校に行って勉強がしたいという夢が実現したことも凄いことなのです。

村の人たちにとっても誇りでもあります。

親元を離れ家族の犠牲を余儀なくされ、さまざまな困難の末、願いが叶ったのです。

特に、国籍を持たない子供にとっては、県外は、もとより郡外には、出かけることはできません（警察に見つかれば、逮捕され国外退去です。）郡内で生活でき、学校に行けるのは、寛容なタイの人達のおかげです。

この国で暮らす限り国籍を持たない子供は、いくら勉強をしても大学へのチャンスはありません。

これまで国籍を持たない子供は、上級学年になるにつれ夢が描けても実現可能の夢にとどまり、それ以上の希望は持てません。

中学・高校を卒業後は、日雇い・農作業・自分で内職をして食べていくほか、女の子は、家庭の貧困から身売りを選択する子も出てきます。

この子達の本当の夢を描いてもらいたい。そして、その夢は、夢で終わらせたくはありません。そのためにシャンティ寮を卒業するまでに国籍が取得できるようあらゆる努力とお手伝いをこれからも継続して行きます。

「あなたの夢は、あなた自身が実現させるのです。」

みんなで手を携えてがんばれば、夢は現実のものとなると確信しています。

2006.12.25 saeki



—この子達の教育募金を、お願いします。—